

低炭素社会戦略センターシンポジウム「『明るく豊かな低炭素社会』に向かう2050年の姿」

日時 平成30年12月12日(水) 13:30~17:00

場所 伊藤謝恩ホール

**パネルディスカッション 15:25-16:55**

**「2050年、低炭素化の実現と Society5.0」**

**モデレータ 森 俊介 (LCS 研究統括)**

**パネリスト 朝日 弘美 (日産自動車株式会社 企画・先行技術開発本部 技術企画部  
エキスパートリーダー)**

**中出 博康 (三井不動産株式会社 ビルディング本部 環境・エネルギー事業部長)**

**西尾健一郎 (一般財団法人電力中央研究所 社会経済研究所/  
エネルギーイノベーション創発センター上席研究員)**

**山崎 誠也 (富士通株式会社 環境・CSR 本部 環境エンジニアリング部長)**

パリ合意の実現に向け、社会の低炭素化は必須となった。しかし2℃目標の実現には、省エネルギーの延長や低炭素燃料への転換など、従来型の緩和策のみでは不足であり、イノベーションによる社会の総合的な変革が必要とされている。特に情報通信技術の進化とともに、サイバー空間利用の飛躍的発展による「超スマート社会」(Society5.0)が描く未来社会の姿は、「明るく豊かな低炭素社会」実現のキープレーヤーとして期待が高まっている。

本パネルディスカッションでは、こうした未来社会における主要産業の展望や具体的な取組みが各分野の専門家から報告されるとともに、Society5.0で起きるであろう各産業の変革が将来のエネルギー消費にどのように影響するか、低炭素化の実現にどのように影響、貢献するかを踏まえつつ、それぞれの立場から「明るく豊かな低炭素社会」に接近する道筋を議論することを目的とした。

まず、低炭素社会戦略センターの森より、本パネルディスカッション全体の主旨の説明があった。ここでは温暖化に関する科学的知見から緩和策が必須なこと、さらにそのためにはSociety5.0に描かれるイノベーションが不可欠なことが紹介された。これに続き、各パネラーから低炭素化に向けた各社の取組みと展望が紹介された。具体的には日産自動車の朝日氏から自動車の電動化とインフラ整備の進行、さらにプーリングによる電力系統との連系が排出削減の鍵となることが示された。三井不動産の中出氏は、街づくりを災害対策の視点からとらえ、外部からの電力供給だけでなくガスコジェネやAIによるマネジメントシステムの導入、さらにごみ焼却熱などとの一体化により、結果としてレジリエンスの強化と低炭素化への貢献を同時に得られることが述べられた。電力中央研究所の西尾氏は、低炭素化に向けた電力化とスマートメータによる情報収集とAIを利活用したマネジメントの可能性とその一方で、家庭用HPなど技術導入が進まないロックインの問題を指摘した。富士通の山崎氏は、様々な分野でのICTの導入と脱・低炭素化社会への導入とソリューションの例および削減ポテンシャル評価例を紹介し、AIの時代も主役が人間であることを強調した。次いで、フロアからの事前質問、①AIの利活用についての実績と将来展望、②蓄電池の活用と低炭素社会への寄与の展望、③Society5.0の低炭素社会への貢献、障壁、期待するイノベーション等についての見通しについて総合的な回答と議論が行われた。最後に、分野横断的な協働とビジョンの必要性が改めて強調され、盛会のうちに幕を閉じた。